

# 一般質問

## 主な質問と答弁

### やさしい日本語

#### 外国人市民の意見を反映 職員向け研修に取り組む

竹村 雅夫

(民主クラブ)

**質問** 弘前大学の研究チームが開発した「やさしい日本語」という取り組みが最近注目されている。本市でも研究し、すべての市民のために文書の改善をしていく必要があると思うが、見解を聞きたい。

**答弁** 多文化共生のまちづくりを推進するため、外国人市民の意見を市の施策に反映し、まちづくりに参加するきっかけとすることを目的とし、平成23年度に藤沢市外国人市民会議を設置した。13の国・地域出身の

20人の委員で構成され、28年3月には、この会議から市長に対し平仮名や易しい日本語の情報をつやとしてほしいとの提言書が出された。「やさしい日本語」を研究し、文書作成に生かしていくことは、多言語による情報発信を補完し、より多くの方に必要な情報を届けるために大変有効な手法であり、市職員として基本的な姿勢として常に意識することが必要と考えている。

#### 市職員の時間外勤務 マネジメントを徹底

井上 裕介

(市民クラブ藤沢)

**質問** 働き方改革のあり方が議論される中、平成28年度の時間外勤務手当の決算額は約15億円と聞いているが、個人の状況を聞きたい。

**答弁** この5年間で最も時間外勤務が多かった職員の度末では基金額が約25億円となっており、平成27年度も負担軽減を図るべきであり、保険料軽減に向け、国庫負担割合の引き上げを国へ要望する必要があると考えるが見解を聞きたい。

**質問** 本市の民生委員の平均年齢は年々上がって推移しており、最高齢は80歳である。民生委員・児童委員をサポートするため、市が主導して、協力員制度の導入や支援方針の策定など、抜本的な制度運用の見直しに取り組む必要があると考えるが見解を聞きたい。

**答弁** 民生委員制度は、大正6年に岡山県で創設された。近年、地域住民の抱える課題は多様化、複雑化している。民生委員・児童委員に対する期待が大きくなる一方、その活動は困難を増している。民生委員・児童委員の高齢化も進んでおり、なり手不足の問題も含めた制度上の課題について、今後とも国に改善を要望する。また民生委員・児童委員が自治会・町内会を初め、多様な地域団体や、地域包括支援センター等の専門機関と連携した支援体制を構築すること、活動負担の軽減と、活動しやすい環境づくりにつなげていくと考えている。

**質問** 本市の図書館の再整備の機会を捉え、ハード整備も含め、こうした視点による図書館運営をすべきと考えられているが、市の見解を聞きたい。

**答弁** 今後の人口構造の変化や、成長から成熟社会への転換を踏まえると、図書館は、市民の子育てや学び、仕事を趣味、市民活動等のそれぞれのライフステージに寄り添って支援し、暮らしやすい地域社会の創造に寄与するために、さまざまな施設や機関との連携が重要であると認識している。

**質問** 平成26年3月に策定した藤沢市公共施設再整備の基本方針では、再整備に際して安全性の確保、長寿命設計の諸室面積となった。

**答弁** 平成26年3月に策定した藤沢市公共施設再整備の基本方針では、再整備に際して安全性の確保、長寿命設計の諸室面積となった。

**質問** 辻堂センター再整備機能を集約し複合化

山内 幹郎

(日本共産党藤沢市議会議員団)

**質問** 辻堂市民センター再整備について9つの施設の複合化は絶対条件だったのか。また複合化の結果、現在の市民センター・公民館あるいは当初の基本構想委託時と比べて、大幅に削減されたものを順に聞きたい。

**答弁** 平成26年3月に策定した藤沢市公共施設再整備の基本方針では、再整備に際して安全性の確保、長寿命設計の諸室面積となった。

**質問** 辻堂市民センター再整備機能を集約し複合化

山内 幹郎

(日本共産党藤沢市議会議員団)

**質問** 辻堂市民センター再整備について9つの施設の複合化は絶対条件だったのか。また複合化の結果、現在の市民センター・公民館あるいは当初の基本構想委託時と比べて、大幅に削減されたものを順に聞きたい。

**答弁** 平成26年3月に策定した藤沢市公共施設再整備の基本方針では、再整備に際して安全性の確保、長寿命設計の諸室面積となった。

**質問** 辻堂市民センター再整備機能を集約し複合化

山内 幹郎

(日本共産党藤沢市議会議員団)

**質問** 辻堂市民センター再整備機能を集約し複合化

山内 幹郎

(日本共産党藤沢市議会議員団)